

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【大宮南小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<p>学校課題研修を通し、教科横断的な内容の精査をさらに進めていく。繰り返し基礎的・基本的な知識や技能を定着させていく必要があるため、算数で学んだ表・グラフの読み取りや数量関係の整理を、理科や社会の資料の読み取りに生かすなど、各教科で学んだことを他教科の学習でも活用する場面を設定する。また、各単元ごとに確実に学習を振り返る時間を設置するとともに、新しく導入される一人一台端末の効果的な活用を検討していく。</p> <p>見つけ、解決す また、(4)の学習</p>
思考・判断・表現	<p>次年度各教科において、自分の考えを整理し、根拠をもとに説明する学習活動を充実させる。具体的には、一人一台端末を効果的に活用し、図・表・グラフ・メモなどの思考ツールを用いて考えを整理する活動を取り入れ、ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れたい。授業の中で「なぜそう考えたのか」「どの資料や事実を根拠にしたのか」を説明する場面を設け、根拠をもとに考えを表現する経験を積み重ねることで、思考力・判断力の向上を図る。</p>

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 「国語」話すことと書くこと」「書くこと」 算数「数量と単位」 理科「生命と柱とする領域」「地球と柱とする領域」 <指導上の課題> 既習事項を振り返りながら新たな学習と結び付けたり、日常生活に生かしたりすること 課題がみられる。今後は、より児童の理解度を的確に把握し、獲得した知識・技能を活用する場面を設定していく必要がある。</p>	<p>～課題解決するための土台となる学び方を身に付けられるようにする。～ これまで学習したことを新たに学習することのつながりや日常生活との結びつきを感じさせ、学習の必要感を感ぜさせる授業を展開する。【実施時期】 書き込みが深まり、ドリルワークの活用で、一人ひとりの課題に合った学習を進める。【頻度】1回 【さいたま市学習状況調査(学習した内容について、肯定的評価)と比較し、次の学習につなげることができていますか】の質問項目において、肯定的評価90%以上】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語「話すことと聞くこと」「読むこと」 算数「数の数から立派すること」「自分の考えが伝わるように適切な図表を用いて書くこと」 理科「観察方法を考えること」「実験結果を分析して考察すること」 <指導上の課題> 学びに向かう姿勢や考えを表現しよとすること課題の共通点を見いだす。児童の思考を深めたり、広げたりしていくために、子ども主体の学びになるような授業をより一層展開していく必要がある。</p>	<p>～自らの課題を見つけ、解決するための方法を考え、行動(計画・議論など)できるようにする。～ 予想や仮説を基に観察、実験の計画や自力解決の方法を考える等、児童が主体的に解決に向かえる授業を展開する。【実施時期】 ペア学習、グループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えを表現したり、他者の意見に対するフィードバックを行ったりする活動を実施する。算数では、数学的な言葉や数を用いて理由を説明したり、各教科においては「なぜそのようになの?」を考えたり、説明したりする場面を設定する。【頻度】1回 【さいたま市学習状況調査(学習した内容について、肯定的評価)と比較し、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか】の質問項目において、肯定的評価90%以上】</p>

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<p>6年算数では、児童が自分の学習状況を把握できるよう、ルーブリックを用い、1時間の学習の目標設定や振り返りを行った。振り返りは、学習内容だけでなく学習方法についても考え、次の学習に生かせるようにした。また、各学年で、学習内容の習熟・定着の時間を、タブレットを活用して教科書問題の確認やドリルワークの問題に取り組みなど、自分のペースで繰り返し学習できる環境を整えた。これにより、児童が自分に合った方法で学習に取り組み、基礎的な知識・技能の定着を図れるようにした。【さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目における、肯定的評価の児童の割合 91.75%】</p>
思考・判断・表現	A	<p>各教科でオクリングプラスやCanvaを活用し、児童同士で考えを共有したり、互いの作品を参考にしたりする活動を行った。国語・算数では、友達との考えを見ることが、よりよい表現の工夫や解き方を学び、考えを広げることができた。図工や音楽では、作品や演奏を録音して振り返ることで、児童同士で工夫や課題を考える様子が見られ、次の学習に生かせるようになった。また、様々な方法の中から自分に合った方法を考えて取り組みが見られるようになった。</p> <p>【さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目における、肯定的評価の児童の割合 93.6%】</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>本校の平均正答率は、すべての教科において全国平均を上回った。児童一人ひとりの取り組みが、着実に進捗につながっていることがわかる。算数では、言葉の意味や漢字の活用に関する問題も取り組み、着目力が身に付いていることが確認できた。国語では、知識の活用や読解力、情報を読み取る能力、情報を選択する力を高めることで、より深い理解の形成につながっている。理科では、基礎的な知識や技能が確実に身に付いており、その活用が次の課題となっている。「適切なグラフを選び、その理由を言葉や数で説明すること」や「分数の加法を、共通する単位分数に基づいて数や言葉で表現すること」は、思考力・表現力をさらに高める絶好の機会である。問題解決に際しては、グラフを適切に選び、その意味や表し方に基づいて計算方法を工夫する力を育てることで、学びをより深めたい。</p> <p>理科では、前の課題であった「地球に関する領域で大きな成果が見られ、学びの定着が確認できた。しかしの種子の発芽条件に関する問題から、さらに伸ばしたい点として、新たな課題を見出し活用する一方で、実験の観察や行っている観察では「水・空気・温度・湿度の3条件に絞られているため、光との関連を考慮する機会がなかったことが影響したと考えられる。今後は、予想や仮説を基に自力解決方法を考え、表現する学びを充実させることで、より主体的に科学的な探究へとつなげていく。</p>	
思考・判断・表現	<p>本校の平均正答率は、すべての教科で全国平均を上回った。子どもたちの学習意欲と日々の努力が、確かな成果につながっている。国語では、課題であった「話すこと・聞くこと」のインプットや「読み取り」のやり取り、力を伸ばすことができた。今後はさらに、「目的に応じて文章と図表を結び付け、必要な情報を的確に見つけ出す力」の向上が期待される。理科の観察や読解力、情報を読み取る能力、情報を選択する力を高めることで、より深い理解の形成につながっている。理科では、基礎的な知識や技能が確実に身に付いており、その活用が次の課題となっている。「適切なグラフを選び、その理由を言葉や数で説明すること」や「分数の加法を、共通する単位分数に基づいて数や言葉で表現すること」は、思考力・表現力をさらに高める絶好の機会である。問題解決に際しては、グラフを適切に選び、その意味や表し方に基づいて計算方法を工夫する力を育てることで、学びをより深めたい。</p> <p>理科では、前の課題であった「地球に関する領域で大きな成果が見られ、学びの定着が確認できた。しかしの種子の発芽条件に関する問題から、さらに伸ばしたい点として、新たな課題を見出し活用する一方で、実験の観察や行っている観察では「水・空気・温度・湿度の3条件に絞られているため、光との関連を考慮する機会がなかったことが影響したと考えられる。今後は、予想や仮説を基に自力解決方法を考え、表現する学びを充実させることで、より主体的に科学的な探究へとつなげていく。</p>	

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>各学年ともに、どの教科もほとんどの領域で市平均を上回るよい結果となった。一人ひとりの課題に合った取組を積み重ねてきた成果だと考える。特に、言葉の種類や言語に関する事項・計算等の知識・技能が身に付いている。そんな中で、国語では、高学年の「主題と文脈の関係」の正答率が低かった。文章が長くなることにより、主題と文脈、修飾語の使い分けができない児童もいる。文章の中で、主題・文脈を置く位置や主題の重複など、日常の読解や作文の中で繰り返し確認する機会を設けたい。社会では、「地図記号」「我が国の国の位置」の理解が不十分であった。地図や資料を活用して確認する学習や、繰り返し活用する機会が十分でなかったことが要因と考えられる。</p> <p>理科では、「生命」「地球」の領域において「解剖顕微鏡の使い方」「植物の受粉」「大地のつくり」など、観察・実験を伴う学習についての理解が見られた。実験の操作や観察の結果が十分に知識として整理されていないことが要因と考えられる。観察・実験を通して得た事実・結果を振り返り、理科の用語や仕組みと結び付けてまとめた。学習した内容を次の単元と結び付けて比較させたりする活動が必要と考えられる。</p>	
思考・判断・表現	<p>各学年ともに、どの教科もほとんどの領域で市平均を上回るよい結果となった。また、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか。」の質問に肯定的に答える児童の割合が高かった。教科横断的な視点を取り入れた授業づくりを意識したり、ペアやグループ学習を意図的に取り入れたりと成果が大きい。国語では、3・4年生において「話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。」に課題が見られた。算数では、昨年度同様「整数内にある2つの数量関係」「単位量あたりの大きさ」「線分図に相当する数の関係」についてが課題である。どの数量が基準量でどの数量が比較量が正しく判断する力が十分に定着できていない。線分図などを用いて数量の関係視覚的に捉える経験が少なく、数量の関係を正しく読み取る力が十分に定着していないことが考えられる。また、式と問題文を関連付けて考えることも課題である。</p> <p>理科では、「かけの観察記録を基に、グラフに表し分析する」「方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析する」「雲の動きから天気予想する」の解答率が低かった。観察した事実から考察し、まとめる力が十分に育っていないことが要因と考えられる。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<p>全国学力・学習状況調査の児童質問「授業で学んだことを、次の学習や実生活に活かすつもりで考えたり、生かしたりすることができると感じますか」に対する肯定的な回答の割合は94.9%であった。学習のまとめに「この内容は他の教科やこれからの学びにどう生かすか」を考えた時間を設けたり、教科横断的な単元設定をし、クロスリキョウラムの課題(例、算数の割合を理科の実験結果に活用、国語で学んだ説明文の書き方を社会科レポートに活用)を取り入れたらいい。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>全国学力・学習状況調査の児童質問「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的な回答の割合は、96.8%であった。取組が互いの考えに結び、学びを深めている。ペアやグループで意見を共有する時間を計画的に取り入れていく。授業の導入での「ペアトーク」、学習の途中での「グループディスカッション」、学習のまとめでの「全体共有」などを組み合せ、児童一人ひとりの安心感や自信を高め、意見を話し合える場を確保することで、思考の深まりや新たな発見につなげていく。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)